

●注目される江東内河川の観光舟運

以前のホットニュースでも、弊社で手がけている江東内河川の観光舟運に関する調査や、社会実験などについて紹介させて頂いた。今回はその後の状況を報告したい。

調査検討は現在も継続しており、東京スカイツリーの開業が平成24年5月とプレス発表されてからは、東京スカイツリー直下の北十間川に整備される船着場を活用した墨田区と江東区を連携する観光舟運の計画動向も大きな注目を浴びている。計画の実現のためには船着場の管理体制がポイントとなる。スカイツリーが開業すればタワー下の船着場の利用申請が殺到し、運航調整なども含めて行政側では対応しきれない状況となるため、舟運事業者団体などで構成する新たな船着場の管理体制を構築する必要がある。

既に日本橋あるいは大阪では、それぞれ地元の事情に則った体制により船着場を管理している事例があるが、江東内河川の船着場についても墨田区と江東区および舟運事業者団体などとの調整のもと、両区の事情に整合した管理体制の構築を検討中である。

また、水上交通の安全管理もポイントとなる。江東内河川は川幅が狭いうえにタワー下に船着場を持つ北十間川は樋門（水門と違い開閉が出来ない）により行き止まり河川となるため、運航事業船舶以外に多くのプレジャーボートやカヌーなどが無秩序に流入してしまうと安全航行に支障をきたすため、公有水面利用を前提とした新たな通航ルールを定め、たうえで遵守徹底が求められる。

これらの点を考慮しつつ、具体的な観光舟運事業のモデル的展開を社会実験として検証し、出来るだけ早期に観光舟運事業を可能とする環境を整えていくことが、弊社の舟運担当者に課せられたインポッシブルにはできないミッションである。

海口 晴彦（第二計画部）

●悠久のロマン

元旦に、樹齢二千年といわれる楠を拝する機会があった。千年以上の古木は国内各地に数多あり、いわゆる縄文杉は三千～四千年、世界最古の古木は約一万年という。放射性同位元素でも年輪でも、そして他の方法でも、あくまでも推定にはすぎないが、生物の生存の奇跡であり、悠久のロマンの世界であることは間違いない。

我々にとってはたった百年であっても、未来は未知の領域にある。たった百年前、我が国の人口は6千万人に満たなかった。この百年で倍増し、そして超長期の参考推計をみると百年後には元の水準に戻りそうだ。そして、スケールを少し長くすると人口増大、少子高齢化という日本のたどった道を地球規模でまさに同じようにたどっていくことが想定されている。

都市計画では、当然のことながら、想定可能な(数)十年オーダーで考えざるを得ない。しかし、その目的とする「都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、もつて国土の均衡ある発展と公共の福祉の増進に寄与すること」について考えると、もう少し違うアプローチがあるのかもしれない。

二千年という年月は地球・宇宙にとっては一瞬にすぎないが、我々人類の都市文明史の四割に迫る壮大なスケールだ。二千年を見つめてきた神木の御利益が、少しでもあると良いのだが。

坂井 雅子（第二計画部）

●フィリピン経済所感

昨年12月に初めてフィリピンを訪れました。これから交通量調査にかかる3年間の技術移転プロジェクトが始まりますが、まずは街を見て感じるフィリピンの経済模様についてお伝えしようと思います。

フィリピンの経済といえば、まず、海外へ出て働く人々、OFW（フィリピン出稼ぎ労働者）の多さでしょうか。空港はVisitorとOFWで窓口が分かれていて、OFWのゲートは長蛇の列です。クリスマス前の帰国時期でさえも、出国を待つOFWの人たちの列が長く続いていたのが印象的でした。

○FWの登録をするために訪れる海外雇用庁（POEA）前も列が途切れません。建物前の道路にまで人が並んでいます。また、出立用にまとめた資金を用意するためでしょうか、個人向けローンのチラシを配る人たちもたむろしているため、いつでも混雑しています。（余談ですが、フィリピンでは、貸金業はパイロットに次ぐもっとも儲かる仕事の一つだそうです。）

そんな彼ら○FWの数は約1470万人（2010年、海外雇用庁）で、これは人口の約15%にあたります。就労する職業でもっとも多いのは家事手伝いですが、最近では全体の約23%が海上での仕事に従事しており、例えば日本からの貨物船でも船長・機関長以外のすべてのクルーがフィリピン人ということも珍しくないそうです。

一方、最近では韓国人の観光などを含むフィリピン進出がとくに目立ちます。街中の日本料理屋はどんどん姿を消し、代わりにコリアンレストランが増えています。私たちが滞在しているマニラのビジネス街マカティにも、韓国人向け日用品店が出店され、ハングル文字のネオンサインが目立ちます。新しくオープンしたコリアンレストランでは、オーナーが自ら店頭立って知己を招き、顧客の開拓に精を出していました。

伊藤 桃子（海外室）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2012 ALMEC Corporation. All rights reserved.